

# 彼方「かなた」

校長通信  
H25.2.4  
Vol.40

【学力向上を目指して】

過日一月二十九日(火)に、駒沢大学、千葉大学等で講師をされている杉山先生並びに東葛飾教育事務所指導主事の太田先生、鈴木先生、我孫子市教育委員会指導主事の横山先生をお招きし、今年度最後の校内授業研究会が



開催されました。二年一組で佐々木先生の英語、二年二組で小川先生の国語の研究授業がそれぞれ展開されました。分科会や全体会では他の先生方の感想や意見が出され、四名の講師の先生方からご指導をいただくことができました。

四月に若手の先生方にこんな話をしました。「若い先生が、技術や経験豊富なベテランの先生に勝るためには何が必要でしょうか？それは、どんなことでも一生懸命やることです！一生懸命授業に取り組む、一生懸命生徒と遊ぶ、一生懸命部活動に顔を出す、一生懸命行事の準備をする、一生懸命他の先生の仕事を手伝う、一生懸命生徒の話を聴く、何でも一生懸命やるのが教師としての自分を向上させ、子どもたちのモデルになり、意欲が引き出されるのです。」これは、私が若い頃先輩の先生に言われたことでもあります。『一生懸命はベテランに勝る』とい

うわかりやすい話でした。

二人の先生も毎日一生懸命教材研究を続けてきました。授業の流し方は？学習課題は？学習形態は？時間配分は？板書は？あれは？これは？と真剣に悩んでいました。子ども達一人一人の顔を思い浮かべながら指導案を書き込み、教材を準備し、どうしたら子ども達にわかる授業、子ども達ができる授業になるのか、睡眠時間を削り一生懸命事前準備を行っていました。

当日は、先生の緊張感が、生徒に伝わるほどガチガチで、考えてきたことや準備したことがスムーズに出てこなかったり、思うような反応が得られなかったりと反省しきりでした。それでもどちらの授業も生徒に助けられ、明るい授業が展開されました。授業後は生徒から「先生！緊張していたね。」「先生！わかったよ！」「先生がんばったね！」と声をかけられ、感激していました。二人の先生の一生懸命さが生徒に伝わったのだと思います。

また、分科会や全体会では、沢山のご指導をいただきました。「国語の授業としてのねらいをもっと明確にしたい」「グループにするねらいをはっきり持つこと」「英語としての課題が分かりやすく生徒が一生懸命活動できた」「先生が話し過ぎないように」「実物投影機等の活用がよかった」「もっと声



に出して読むことを大切に」「国語は、教科書とつなぐことが大切」「授業の中の英語のどのスキル（聞く、書く、話す、読む）を使って評価するかをはっきり持つことが大切」等のアドバイスをいただきました。

最後に杉山先生からは、

校内研修の在り方や次年度に向けての課題についてのご指導をいただきました。「教室の中にいるすべての生徒に学び（ケアのある学び）を保証する」という、降ろしてはならない旗印を確認し、すべての子どもが他者や学ぶ内容に関心・つながりを持たせ、そこにのめり込ませていく教育活動を展開していかなければならないことやすべての子を学びに向けさせる為の共通の決まりを持つこと、校内研を子どもの姿にシフトすること、子どもの学びに関する事実を発見すること等、今後私たちが大切にしていかなければならないことを示唆していただきました。

本校の子どもたちが学びから逃げず、わからなかったことがわかるようになったり、できなかったことができるようになったりという本当の学びの楽しさを教えられる教師集団を目指し学び続けていきたいと思われました。先生方にとっても大変学びの多い研修会となりました。

湖北の子どもたちの学力を飛躍的に向上させていくにはまだまだ時間がかかるかもしれませんが、みんなで力を合わせ必ず実現していきたいと思えます。

